2020年8月18日

各　位

会 社 名　株 式 会 社 キ ャ ン バ ス
代表者名　代表取締役社長　河邊　拓己
（コード番号：4575　東証マザーズ）
問合せ先　取締役最高財務責任者兼管理部長
加登住　眞（電話 055-954-3666）

＜マザーズ＞ 投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○　開催状況

開催日時	2020年8月18日　10：00～11：30
開催方法	対面による実開催
開催場所	コンファレンススクエア エムプラス （東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱ビル10階）
説明会資料名	2020年6月期決算説明会

【添付資料】

１．2020年6月期決算説明会資料

以上

CanBas
Cancer therapy by Basic research

株式会社キャンバス

《証券コード:4575》

2020年6月期 決算説明会

2020年8月18日

Part 1
2020年6月期
決算報告･事業報告

2020年6月期 決算報告

決算のポイントとトピックス

事業収益 110百万円

- ✓ Stemline社とのCBS9106提携に基づく収益
  - 技術アドバイザリーフィーは前年と同額。ライセンス契約拡大延長一時金相当分が減少
  - 2021年6月25日まで同額で継続

事業費用 676百万円 営業損失 566百万円

- 開発費 241百万円
  - 期首予算額 367百万円
  - フェーズ1b試験拡大相MSS直腸大腸癌の組入れ時期、費用計上時期が後ろにズレ
- 基礎研究費 200百万円 概ね予算どおり
- 販売費及び一般管理費 234百万円 予算をやや上回る

営業外損益・特別損益

- 支払利息・為替差損・新株予約権戻入益 いずれも大勢に影響なし

2020年6月期 決算報告

貸借対照表概要

（単位：千円）

		2019/6期末	2020/6期末	増減（参考値）
資産の部	流動資産	844,096	1,231,935	387,839
	現金及び預金	763,674	1,112,334	348,660
	売掛金	61,442	56,054	△5,388
	固定資産	31,277	31,347	70
	有形固定資産	－	－	－
	資産合計	993,281	578,289	△414,992
負債の部	流動負債	219,083	276,386	57,303
	固定負債	－	749,994	749,994
	負債合計	219,083	1,026,380	807,297
純資産の部	株主資本	575,429	151,862	△423,567
	資本金	4,514,392	4,589,044	74,652
	資本剰余金	4,501,242	4,575,894	74,652
	利益剰余金	△8,439,989	△9,012,779	△572,790
	自己株式	△215	△297	△82
	新株予約権	80,860	85,040	4,180
	純資産合計	656,290	236,902	△419,388

転換社債発行による現金増

Stemline社 技術アドバイザリーフィー入金

有形固定資産減損済

臨床試験関連の未払金増加

転換社債未転換

2020年6月期 決算報告

損益計算書概要

（単位：千円）

	2019/6期	2020/6期	増減（参考値）
事業収益	115,550	110,000	△5,550
事業費用	648,627	676,800	28,173
研究開発費	444,075	442,205	△1,870
販売費及び一般管理費	204,552	234,595	30,043
営業利益	△533,077	△566,800	△33,723
営業外損益	△1,880	△6,886	△5,006
経常利益	△534,958	△573,686	△38,728
特別損益	80,000	2,146	△77,854
税引前当期純利益	△454,958	△571,540	△116,582
当期純利益	△456,208	△572,790	△116,582

転換社債にかかる
支払利息等

2020年6月期 決算報告

キャッシュフロー計算書概要

（単位：千円）

	2020/6期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△552,921
投資活動によるキャッシュ・フロー	△72
財務活動によるキャッシュ・フロー	901,659
現金及び同等物に係る換算差額	△6
現金及び同等物の増減額	348,659
現金及び同等物の期首残高	763,674
現金及び同等物の四半期末残高	1,112,334

転換社債と新株予約権の
発行による収入

2021年6月期 業績見通し

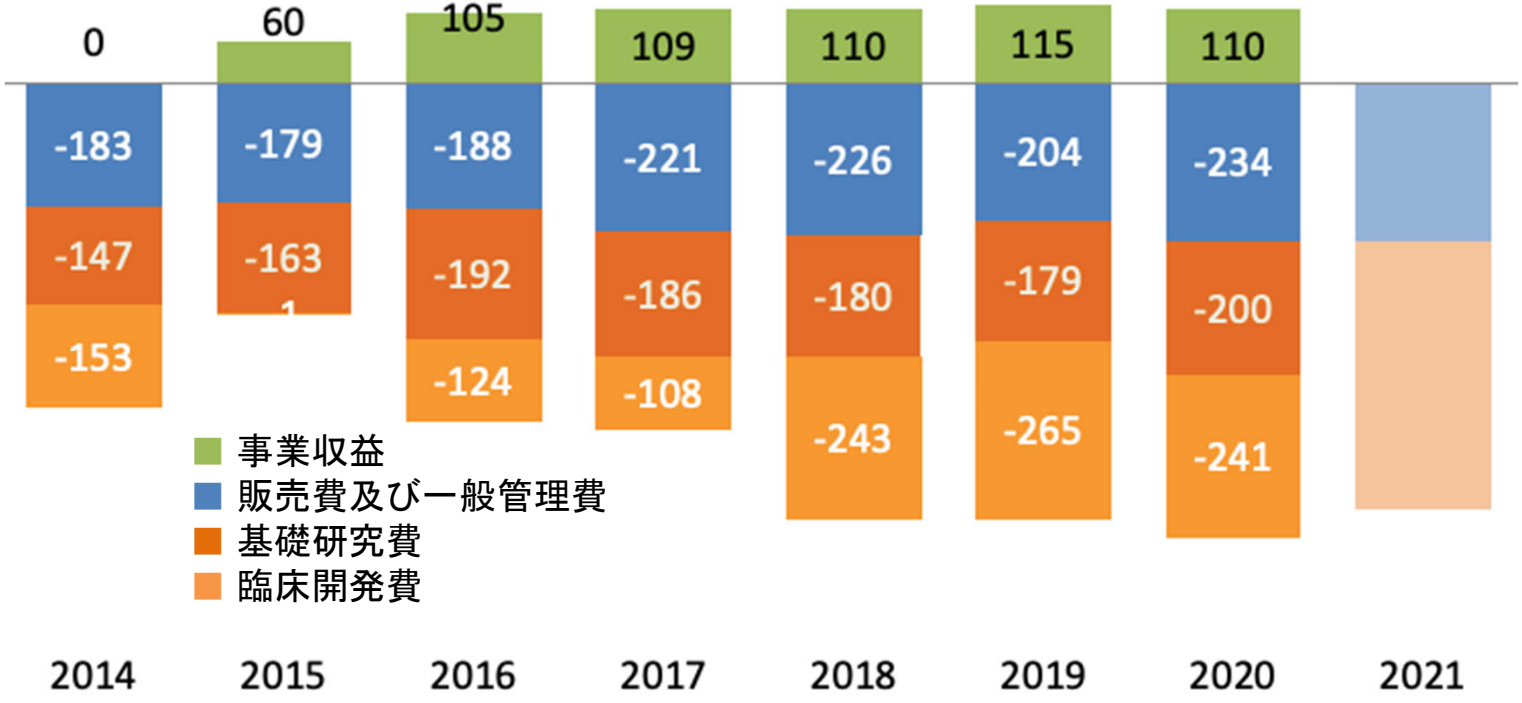
今期から見通し非開示
費用面は「めやす」開示

事業収益：見通し非開示

- ✓ 新規提携が実現した場合の内容に不確実性が大きく、合理的な算定が不可能

事業費用：2020年6月期よりも減少見込み

- ✓ 販管費 前期並み
- ✓ 研究開発費 減少見込み



CanBas
Cancer therapy by Basic research

2020年6月期 事業報告

財務関連適時開示

アドバンテッジアドバイザーズとの事業提携・資金調達

◆ 事業提携契約締結（2019年10月10日）

◆ 資金調達（同日公表・2019年10月31日払込完了）

- ✓ 第15回新株予約権 558,600株分 499百万円）
- ✓ 第3回無担保転換社債型新株予約権付社債 837,982株分 749百万円）

➢ 2020年6月期（～2020年6月30日）の状況

- ✓ 第15回新株予約権 558,600株 499百万円（当初行使価額895円の場合）
  - 2020年5月 行使価額修正 895円→730円
  - 2020年6月末までの行使 202,400株 147,752千円（発行した新株予約権の36.2%）
- ✓ 第3回無担保転換社債型新株予約権付社債 837,982株 749百万円
  - 転換なし ※転換社債は転換価額修正条項なし

Part 2
2020年6月期
研究開発報告

2020年6月期 事業報告

研究開発関連適時開示(1)

CBP501 フェーズ1b試験拡大相

➢ ASCO2020にポスター発表

✓ CBP501・シスプラチン・ニボルマブ(オプジーボ)の初めての3剤併用投与40名の途中解析結果として、3剤併用の忍容性と活性の兆候が継続的に確認されている

- 注目点:
  主に3次治療以降の進行膵臓癌患者集団13名中投与量漸増相1名の部分奏効
  白血球数1万/μL 以下の10名のPFS中央値4.2ヶ月、OSの中央値5.9ヶ月

➢ 膵臓癌組入れ完了(評価可能10例達成)

✓ 投与量漸増相に続き、50%の患者において3ヶ月超のPFS達成

- 現在投与継続中1名

CBS9106 (Felezonexor、Stemline社における開発コードSL-801)

➢ ESMO2019での発表(2019年9月30日)

- 重篤な副作用なく投与量依存的に薬剤の血中濃度が上昇
- 3つの既治療歴のあるMSS直腸大腸癌で長期にわたる部分奏効(PR)を達成

2020年6月期 事業報告

研究開発関連適時開示(2)

COVID-19治療薬

- 令和2年度医療機器産業基盤強化推進事業助成金
  「免疫応答に着目したCOVID-19治療薬の開発」採択
  - ✓ 抗癌剤として静岡県立大と共同研究中のIDO/TDO二重阻害剤を COVID-19抗サイロカインストーム薬として開発する試み

静岡県立大学 創薬探索センター	キャンバス
✓ SBDDによる阻害剤のデザインと合成	✓ 動物モデルの構築(LPS、二重特性抗体様物質による刺激)
✓ in vitro 評価(酵素&細胞アッセイ)	✓ 動物モデルでの薬効評価
✓ SARS-CoV-2 pseudovirus neutralization assayの構築	✓ 血中サイトカイン、キヌレニン濃度の測定
✓ in vitro POCの確立	✓ in vivo POCの確立

COVID-19治療薬（つづき）

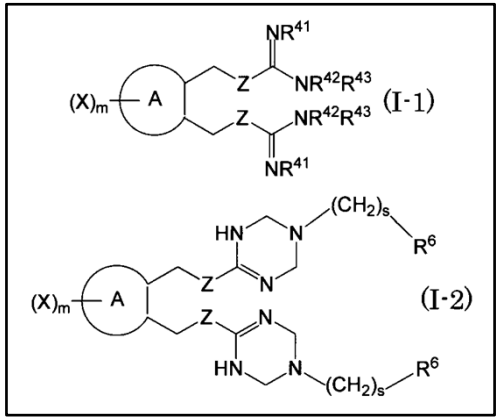
➢ IDO/TDO二重阻害剤による治療戦略

SARS-CoV-2感染
による免疫反応

トリプトファン

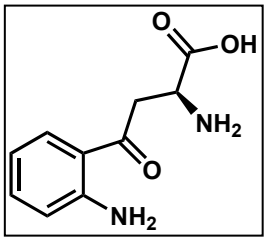
IDO1 / TDO

重症COVID-19患者で
血中キヌレニン濃度が上昇
（Shen et la., Cell, 2020）



IDO/TDO阻害剤（WO/2019/078246）
静岡県立大＆キャンバスの発明

キヌレニン



→ AhRの活性化 → ACE2-B0AT1 複合体形成を促進 → SARS-CoV-2の エントリーを促進

→ NAD+産生 → マクロファージ 調節不全 → サイトカインストームによる 重症化

→ Th1細胞の抑制 → STAT1/IFN-γ シグナルの低下 → ウイルス排除能力の 低下

Part 3
研究開発の近況と展開

基礎研究の近況

これまでのご説明

後続の次世代パイプライン

由来	特徴・標的	探索・創出	最適化	前臨床試験
自社創出	**CBP-A** TAT-S216～CBP501の系譜に属する発展型	CBP-A08		
	CBP-B CBP-Aシリーズとまったく別の発想から作製したペプチド型免疫系抗癌剤			
ファルマバレーとの共同研究	**IDO/TDO阻害剤** 静岡県立大との共同研究			
	（ターゲット非公表） ファルマバレーのライブラリから探索・最適化			

その他共同研究

基礎研究の近況

キャンバスの基礎研究は
「癌免疫領域」へ

創業以来の
キャンバスの基礎研究

細胞周期

G2チェックポイント阻害

細胞全体の挙動に着目

フェノタイプスクリーニング

CBS9106

CBP501

CBP-A08

CBP-B

IDO/TDO

新規標的

新規標的

癌免疫領域に
集中・特化した
基礎研究

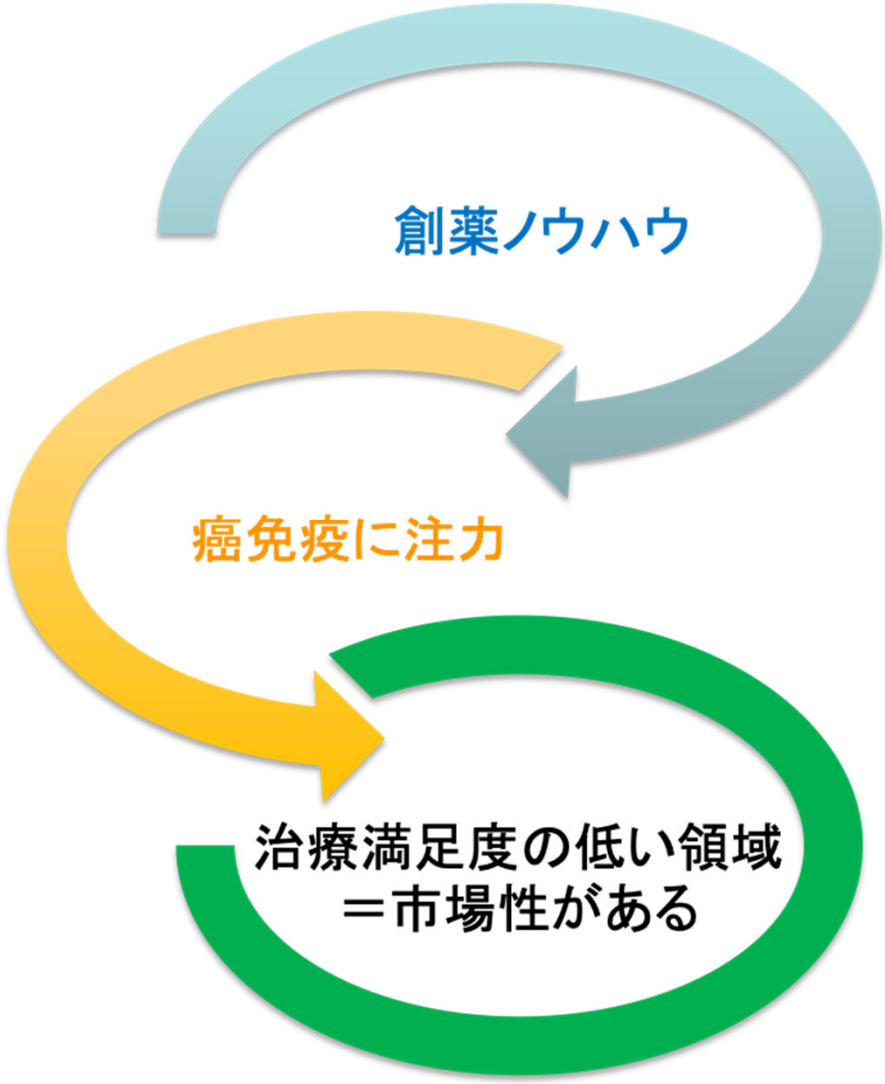
新たなパイプライン創出へ

新任研究開発部長ご紹介

2020年8月1日就任

キャンバスの事業ドメイン

この機会に再整理



ペプチド創薬・低分子修飾などの
創薬ノウハウ
ライブラリー探索から動物実験まで
一貫して実施できる本社研究環境

＋ 自前臨床開発経験からのフィードバック

B細胞、T細胞、樹状細胞等
癌免疫のシステムへの深い理解と知見

（COVID-19治療薬への展開）

CanBas

Cancer therapy by Basic research

将来見通し等に関する注意事項

- 本資料は、当社に関する情報の提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における将来予想・見通し等に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。
- 本資料は、受領者がいかなる目的にご利用される場合においても、本資料受領者ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

お問い合せ先：

株式会社キャンバス　管理部 IR担当
Email　IR@canbas.co.jp